



学力UP便り



全国学力・学習状況調査の結果から



全国の小6・中3を対象に毎年実施され、本校の6年生も4月に取り組んだ「全国学力・学習状況調査」。このほど、全国平均など、結果の詳細が文部科学省から公表されました。学力UP便り第5号では、公表された結果を受けて、学力における「帯小の子どもたちの姿の一端」について紹介させていただきます。子どもたちが、今後も効果的に学習を進めていくことができるような、何らかのヒントになればと思います。

【国語】

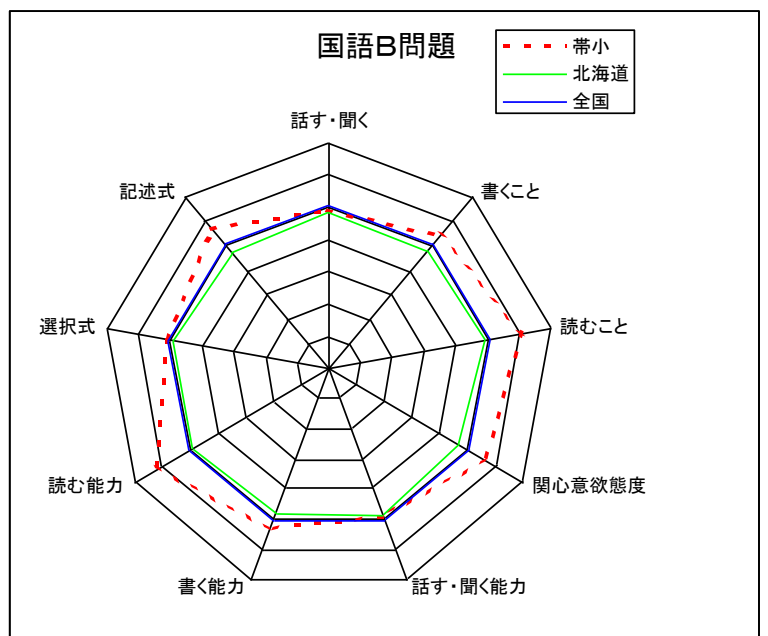
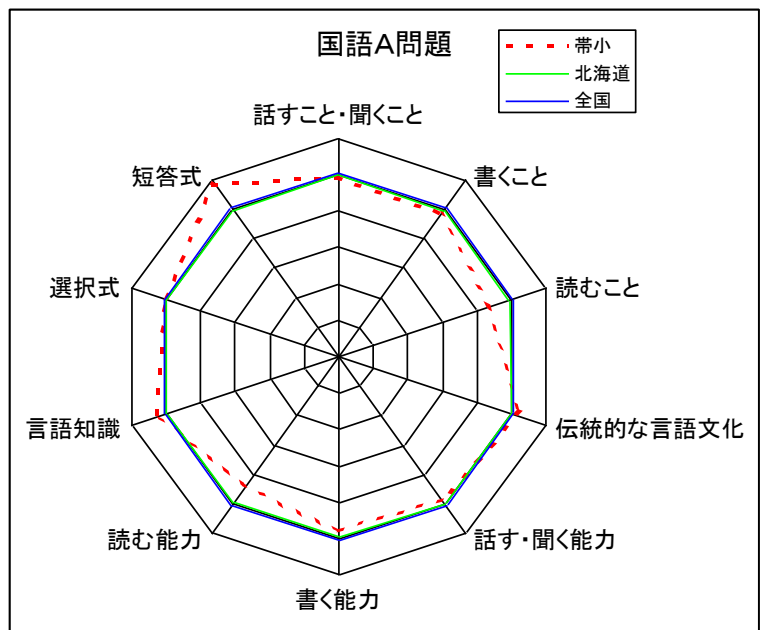
基礎・基本の力を問うA問題は、総合的に全道平均を上回ったものの、全国平均をやや下回る結果となりました。一方、活用力を問うB問題は、全道平均、全国平均を上回る結果となりました。

結果をより詳細に見ていくと、A問題の「伝統的な言語文化～漢字や文法的な内容」領域が、領域別（～こと、で示される学習の範囲）で全国平均を上回りました。具体的には、慣用句「心を打たれる」の意味や用法を答える問題で正答率が高かったほか、主語と述語の関係に気をつけて文を書く問題などで、全国平均を上回っていました。

一方、「話すこと・聞くこと」領域、「読むこと～文章の読解力」領域、「書くこと」領域は全国平均をやや下回りました。登場人物の心情について、心に残ったことと、その理由を説明する適切なものを選ぶ問題などで、全国平均を下回っています。

B問題では「書くこと」「読むこと」領域が全国平均を上回りました。伝記を読んで、心ひかれた部分を選んだ理由を書く記述式の問題などで、全国平均を大きく上回りました。

一方、「話すこと・聞くこと」領域は全国平均をやや下回りました。問題文で示された話し合いの中で、司会者の役割として適切なものを選択する問題などで、全国平均を下回りました。



これらの結果からは、「話すこと・聞くこと」を得意としていない子どもたちが、帯小には少なからずい

ることが窺えます。昨今、「主体的・対話的で深い学び」の重要性が強調されていますが、「対話的」な学びを重視した学習を今後も進めていく必要があることが明らかになりました。

【算数】

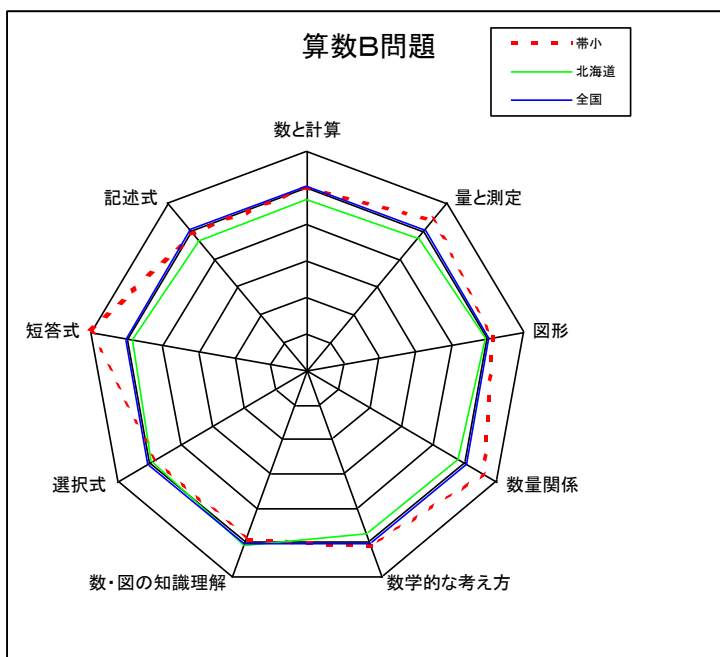
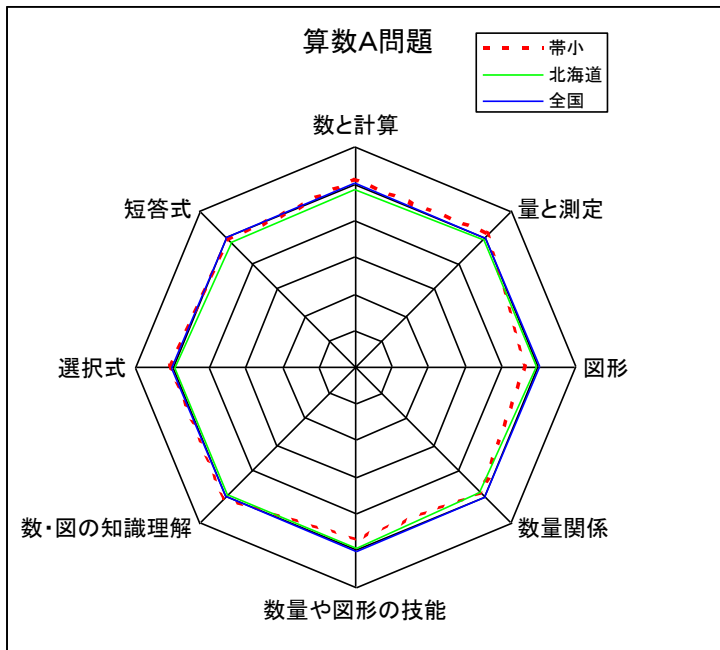
算数は、基礎・基本の力を問うA問題では全国平均とほぼ同じ、活用力を問うB問題では、総合的に全道平均や全国平均をやや上回る結果となりました。

結果をより詳細に見ていくと、A問題では「数と計算」領域、「量と測定」領域が、全国平均を上回りました。問題場面を数直線で表す問題や、分度器の目盛りを読んで、 180° よりも大きい角度の大きさを求める問題などで、全国平均を上回りました。

一方、「図形」領域、「数量関係」領域が、全国平均を下回りました。円の円周が2倍のとき、円周の長さが何倍になるかを選ぶ問題や、示された内容が表されている折れ線グラフを選ぶ問題などで、全国平均を下回りました。

B問題では、「数と計算」領域で全国平均をやや下回ったものの、それ以外の領域では全国平均を上回る結果となりました。示された情報を解釈して、条件にあう時間を求める問題や、「33, 40」の2つの数の和が九九の9の段の数になるわけを、分配法則を用いて式に表す問題などで全国平均を上回りました。一方、1回の玉入れゲームの時間を3分に最も近い時間にするための玉を投げる時間を表に整理して求める問題や、折り紙の輪の色の規則性を考え、それを基に条件に合う色を判断する問題（右下参照）などでは、全国平均を下回る正答率になりました。

これらの結果からは、基礎・基本を大切に、問題文の読み取り、絵や図、表を正しく読み取る力を、日常的に子どもたちに身に付けさせてあげるための工夫や、「問題文→立式→計算→答え」の思考の流れは子どもたちによく理解されている反面、その反対から問われる問題でミスが目立つことから、時には思考の逆転的な問いを準備して、問題に取り組んでいく練習などが、今後も必要であることが明らかになりました。



もらった折り紙は、赤、青、黄、緑の4色が、それぞれ同じ枚数ずつありました。
さくらさんは、折り紙の輪を、図2のように、赤、青、黄、緑の順にくり返してつなげ、輪かざり1本を作りました。

図2

(2) 上の図2のように、1個目の折り紙の輪の色を赤にして、輪かざり1本を作ったとき、30個目の折り紙の輪の色は何色ですか。
下の 1 から 4 までの中から1つ選んで、その番号を書きましょう。

- 1 赤
- 2 青
- 3 黄
- 4 緑

正答率の低かった問題例。
規則性を解釈し、それを基に条件に合う色を求める問題です。

準備して、問題に取り組んでいく練習などが、今後も必要であることが明らかになりました。

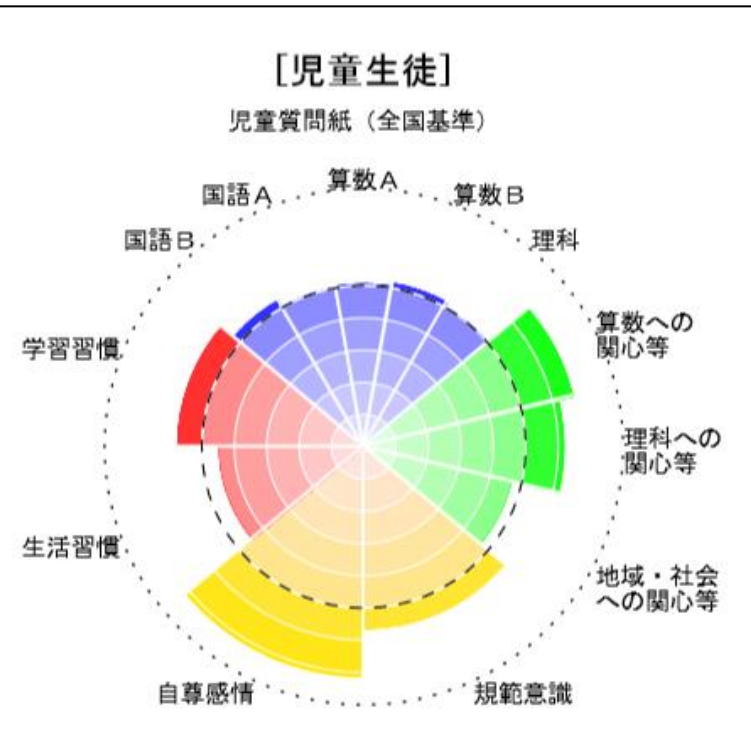
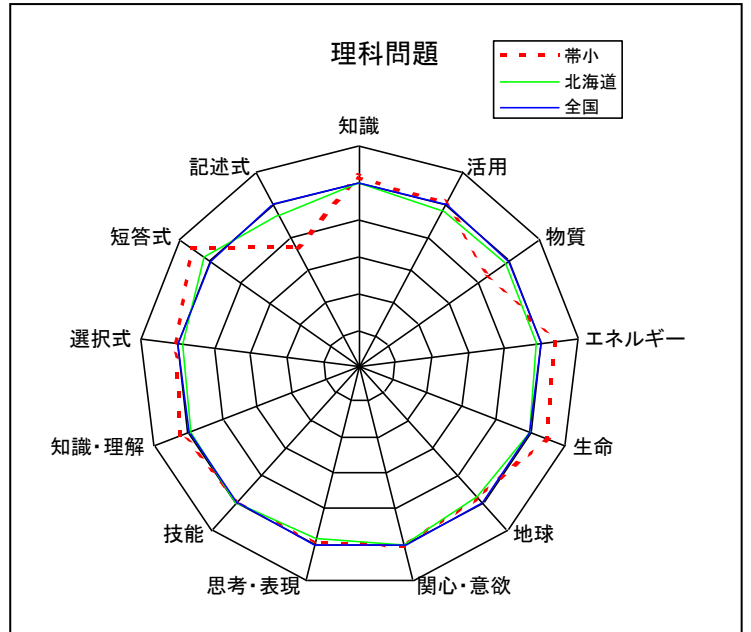
【理科】

理科は、全体的にみると全国平均とほぼ同じ結果となりました。

結果をより詳細に見ていくと、「エネルギー」領域、「生命」領域が、全国平均を上回りました。目的の時間帯にだけモーターを回すため、太陽の1日の位置の変化に合わせた箱の中での光電池の適切な位置や向きを選ぶ問題や、鳥の翼と人の腕のつくりについてのまとめから、どのような視点を基にまとめた内容なのかを選ぶ問題などで、全国平均を上回りました。

一方、「物質」領域、「地球」領域が、全国平均を下回りました。食塩を水に溶かしたときの全体の重さを選ぶ問題や、上流側の雲の様子や雨の降っているところと下流側の川の水位の変化から、上流側の天気と下流側の水位の関係について言えることを選ぶ問題などで、全国平均を下回りました。

これらの結果からは、理科の学習の中で、実生活に生きて働く力を視野に入れた学習を展開する必要があることが明らかになりました。具体的には、例えば新たな疑問を友達と議論しているうちに、議論の中心がずれてしまい、何を確かめていたのかを見失うことのないようにする練習や、相手の話を具体的に自分の中でイメージしながら聞き・解釈する力を高めていき、その考えを共有する場を設け、自分と他者との「違い」を実感し、対話を深め・理解を深めることにつなげて、イメージしながら解釈する力をつけていく練習などが、今後も必要であることが明らかになりました。



*学力レーダーチャートは、全国平均を100とした数値で表されています。

「質問紙調査」から見えてくること…

全国学力・学習状況調査では、国語、算数、理科の学習調査のほかに、学習意欲や方法、環境、生活の諸側面についてアンケート形式で答える、「質問紙調査」が実施されています。このうち、本校の子どもたちに見られる特徴的ないくつかの側面について取り上げ、全国平均と比較しながらお知らせします。

上記(理科のグラフの下)のグラフの見方ですが、色のついている部分が、本校児童の質問紙の結果です。色の部分とおおむね重なっている、円を描いている白黒の線が全国平均値です。学力(青い部分)で見ると、例えば国語Bの部分の色が全国平均値を越えて広がっていることから、この教科は全国平均を上回る結果となったことがわかります。また、緑部分で示されている学習への関心の度合いからは、算数や理科への関

心が全国平均と比較して高い値を示している一方、地域・社会への関心等については、全国平均を下回っていることが分かります。

黄色で示されているのが自尊感情、規範意識についての値です。自尊感情は全国平均を大きく上回っています。赤で示された「習慣」の項目では、学習習慣が全国平均値以上に身に付いている半面、生活習慣は全国平均を下回る値になっています。

では、質問紙について、いくつかの点をピックアップして、具体的に見ていきたいと思います。一部の質問についてはグラフも掲載し、詳しく見ていきたいと思います。

質問1「自分には、よいところがあると思いますか」

質問3「将来の夢や目標をもっていますか」

質問4「学校のきまりを守っていますか」

質問6「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」

質問1と3は自尊感情について、4と6は規範意識についての質問です。質問1は、「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」を合わせると、大変高い値でした。全国平均と比べても高い値で、子どもたちの「自己肯定感」の高さを見ることができます。ここからは、現在の生活に対する満足度の高さを読みとることができそうです。また、質問3についても、「当てはまる」と答えた子の割合が全国平均をはるかに上回る、高い値となっています。

一方、規範意識に関しても、質問4では「当てはまる」で全国をやや上回る値でした。更に、質問6では「当てはまる」が全国平均を大きく上回り、これらの数値からは、「よりよい生活をしていこう」という、子どもたちの意識の高さを読み取ることができます。

質問2「先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか」

一方、質問2においても「当てはまる」の値が全国平均を大きく上回っており、本校の子どもたちの多くが、楽しく充実した学校生活を送れている様子を見て取ることができます。

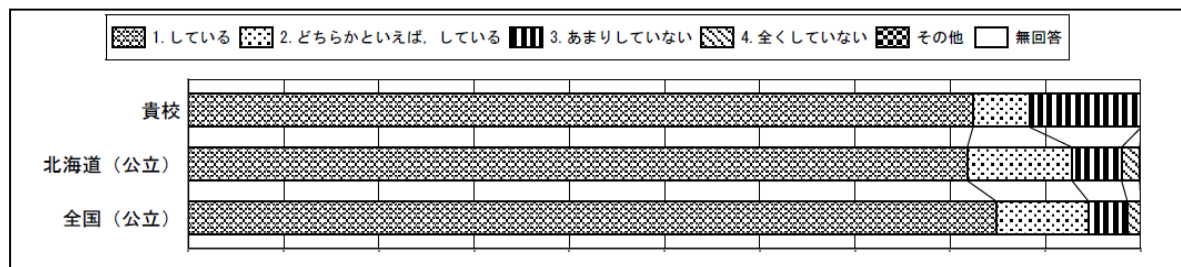
続いて、赤い色で示された「生活環境」「学習環境」等についてです。

質問7「朝食を毎日食べていますか」

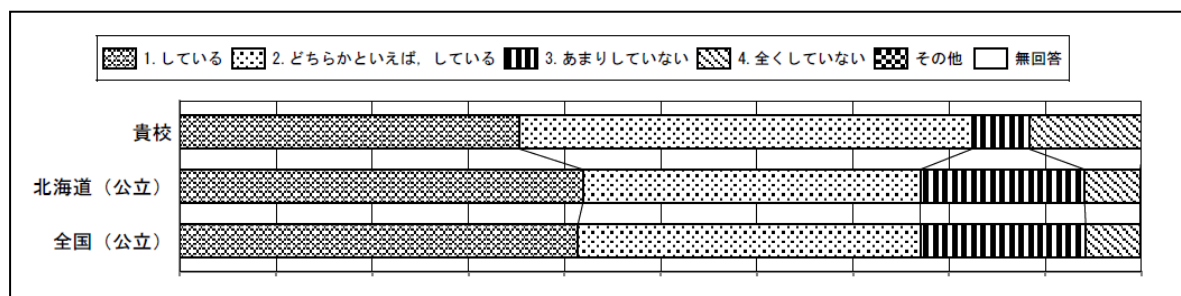
質問8「毎日、同じくらいの時間に寝ていますか」

これらの質問では、「している」と答えた率が、いずれも全国平均をやや下回る結果となっています。「早寝・早起き・朝ごはん」の合言葉もある通り、これらの生活習慣は、健康のためにも、毎日の生活リズムづくりのためにも大切にしていきたいものです。学校でも引き続き声掛けを進めていきたいと考えています。

質問7の結果



質問8の結果



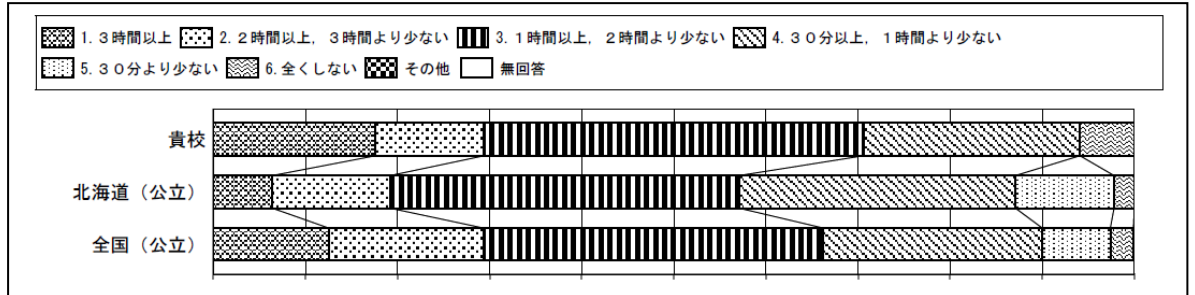
学力UP便り 第5号(3)

次に、家庭での学習時間についての質問です。

質問14「普段、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか」

本校の家庭学習は「学年×10分+10分」としており、6年生の場合は「70分以上の家庭学習」を呼びかけていますが、「1時間以上勉強する」と答えている率は、全国平均をやや上回る結果となっています。家庭学習は、中学生になってからも、とても重要です。ぜひ、今後も継続させていきたい習慣です。

質問14の結果



続いて、地域・社会への関心についての質問です。

質問20「今住んでいる地域の行事に参加していますか」

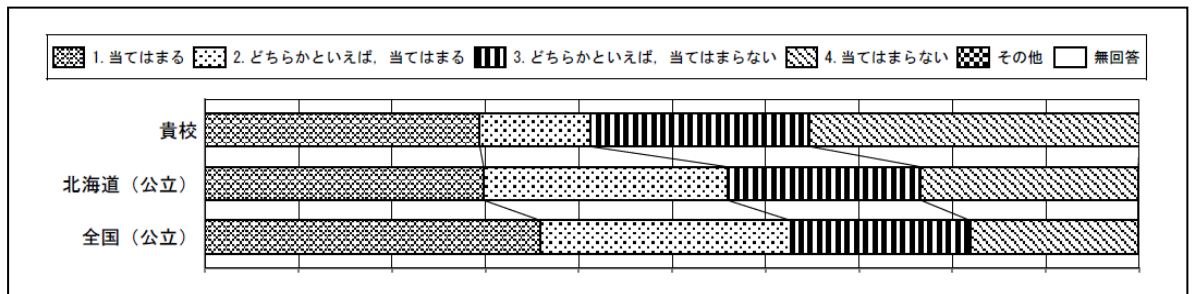
質問23「地域社会などでボランティア活動に参加したことがありますか」

質問21「地域や社会で起こっている問題や出来事に関心がありますか」

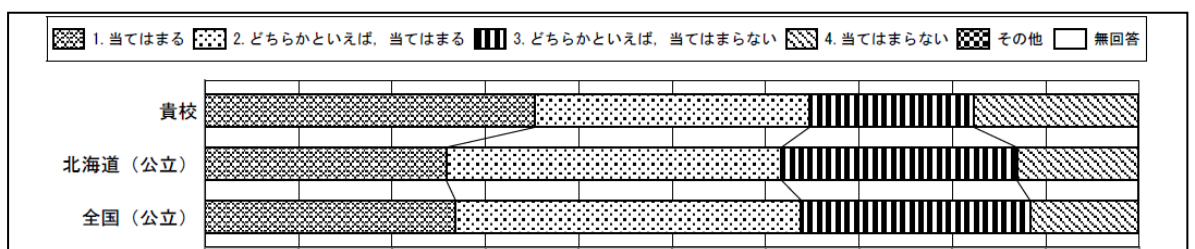
質問20, 23, 21は、地域や社会、ボランティア活動での活動の様子や関心を問うものです。

質問20は、地域行事に参加しているかを問う問題です。本校は市の中心地にあることから、地域行事がなかったり、参加が難しい状況であったりすることもあるかもしれませんが、「している」「どちらかといえば、している」まで含めても、全国平均を下回る値を示しています。また、質問23の「地域社会などでのボランティア活動への参加」を問う問題でも、「参加したことがある」の値が全国平均をやや下回っています。一方、質問21の「地域や社会の出来事への関心」を問う問題では、「あてはまらない」が、やや全国平均を上回るものの、「当てはまる」「やや当てはまる」の合計値も、全国平均をやや上回っており、一定の関心の高さを示すものとなっています。ここからは、地域や社会で起こっている問題や出来事に一定の関心はもっているものの、実際の活動は行っていない（あるいは、環境上、できていない）という子どもたちの様子が見て取れます。コミュニケーション能力は、先にも触れた「対話的」な活動を進める上でも重要な力であり、今後、一層重視されていくであろう能力です。本校でも「キャリア教育」の一環で、様々な職種で仕事をされている方々の話を聞いたり、お年寄りや幼稚園、保育園の子ともたちと活動する場を設けたりして「学校外の人たちとの交流の場」を設けていますが、今後もこのような活動に力を注いでいくとともに、

質問20の結果



質問21の結果



子どもたちにも、様々な「経験の場」の情報を提供するなどして、一人一人が発信力、コミュニケーション力を伸ばしていくことができるような取組を引き続き大切にしていきたいと考えています。

質問25「新聞を読んでいますか」

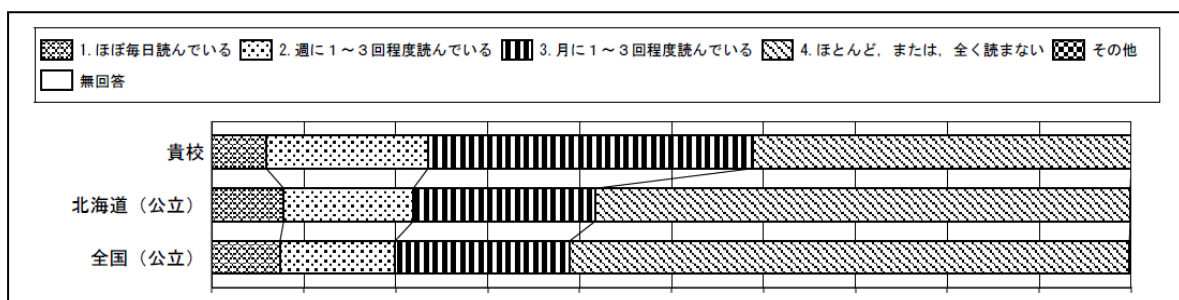
質問26「テレビのニュース番組やインターネットのニュースを見ますか」

質問25、26は、より広い「社会」への関心に関わる、情報収取についての質問です。

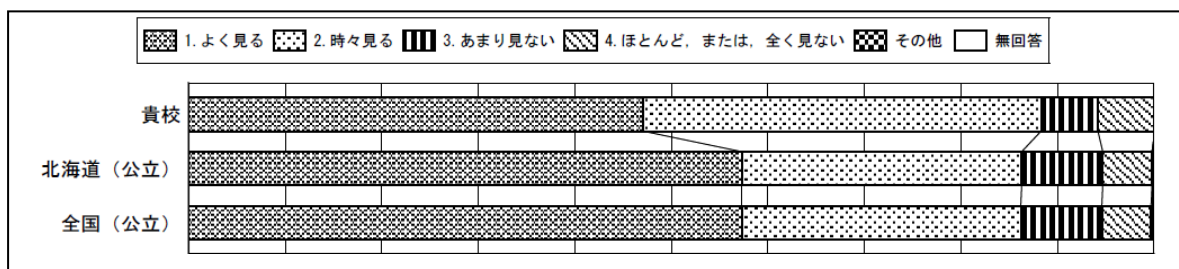
質問25では「ほぼ毎日読んでいる」と答えた率が、全国平均をやや下回ったものの、「週に1～3回程度読んでいる」まで含めると、全国平均を上回っています。

質問26でも、「よく見る」の値は全国平均を下回るものの、「時々見る」まで含めると、全国平均を上回っており、社会情勢への関心の高さを見て取ることができます。子どもたちは地域社会だけでなく、より広く社会全般の出来事にも一定の関心をもっているという姿を、ここから見て取ることができます。

質問25の結果



質問26の結果



以上、質問紙調査について、いくつかの結果をお示ししましたが、全国平均と比べたとき、帯小の子どもたちの実態はどのようなものなのだろう、という疑問への答えにつながるヒントを少しでもお示しできていれば、嬉しく思います。また、前半で触れた学力面につきましても、この調査が「すべての学年での学習内容を網羅している」という特徴をもっていることから、単に今年度の参加者のみの結果ではなく、本校児童全体の姿の一端であると受け止めていただければ幸いです。

本校では、子どもたちの成長を願い、今後も職員が一丸となって指導を進めていきます。しかし、子どもたちが健やかに育っていくためには、ご家庭の皆様の協力も欠かせません。今後とも本校の教育活動へのご理解、ご協力をよろしくお願いいたします。

*帯広市の結果も、市教委から公表されています。関心をお持ちの方は市のホームページなどでご覧いただけますので、ご参照ください。

